

学習指導に関する実態調査

—— 教 官 ・ 生 徒 ・ 保 護 者 ——

教育への関心が深いときです。

東京教育大学附属駒場中・高校、略称「教駒」も創立以来30周年を迎えました。

30才に成長した教駒の実体をアンケート調査の形でまとめてみました。

教官、生徒、保護者の3つのアンケートを並べて掲載しました。

それぞれに異なったニューアンスがあり、比較検討してみるのも有意義であろう。と思うからです。

研 究 部 ・ 生 徒 部

アンケート 1. 学習指導に関する実態調査（教官）

教育研究の基本事項の一つとして、学習指導の実態調査が必要と思います。30年の教駒教育の決算の一つとしまして、研究部として整理してみようと思います。御協力下さい。

Ⅰ 本校生徒の能力または才能についておたずねします。

(1) 教科によってそれぞれ能力・才能のとらえ方がちがうと思いますが、その教科の才能とはどんなことですか。

下の例（数学科の例ですが）の中にあれば番号に○をつけ、なければ余白に書いて下さい。

1. 素材を形式化する能力
2. 捨象する能力
3. 関係づけや関連づけができる
4. 一般化の能力
5. 非本質的なものを捨象し、主要なものを抽出する能力
6. 外見的に異なるものの中で一般的なものを見とる能力
7. 首尾一貫した論理的な推論ができる。
8. 推理過程を短縮する能力
9. 思考過程の可逆性（思考の順の経過から逆の経過へ移行できる）
10. 思考の柔軟性（ある知的操作から別の操作へ切り替わる能力）

()

(2) いわゆるできる生徒と才能ある生徒との関連についてどのように考えていますか。下の余白に書いて下さい。

()

(3) 教駒6ヶ年の教育で才能のある生徒は十分にその能力が伸ばされていると思いますか。御意見を下の余白に書いて下さい。

()

2. ときどき必要と思われるものを自分で作成する

(

)

3. 独自のプランにより自分で作成する

(

)

4. その他

(

)

④ 生徒の学力到達度についておたずねします。該当項目に○をつけ余白に理由を書いて下さい。

(1) 学力の評価をどのようにしていますか

1. 現行どおり期末試験のみで

(

)

2. 期末試験以外にときどき小テストを実施して

(

)

3. 期末試験以外に、レポートや生徒の日頃の態度を加味して

(

)

(2) 評価問題の作成について書いて下さい。

1. 教科書の章末問題程度の試験問題を主に出题する

(

)

2. 教科書の巻末問題、入試問題程度を一部出题する

(

)

3. 生徒のレベルに即した問題を自分で作成する

(

)

(3) ずばぬけてできる生徒に対して(平均点よりいちじるしく上の生徒

1. 何らかの課題を特別にあたえている

(

)

2. 別にしない。彼等の自主性にまかせている

(

)

3 各クラス40名とみて、このような生徒は40名中何名ぐらいいると思いますか

(

)

(4) おちこぼれの生徒に対して(平均点よりいじむしく下の生徒)

1 何らかの課題を特別にあたえている

(

)

2 別にしない。彼等の努力に期待している

(

)

3 このような生徒でも他の公立校では平均より上の生徒と考えられますか

(

)

4 各クラス40名とみて、40名中、何名はいると思いますか

(

)

◎ 御協力を感謝します。

以 上

学習指導に関する実態調査（教官）回答表

[1]	小設問		国語		社会		数学		理科		保健		芸術		英語		
	能力	人数	意見	見	人数	意見	見	人数	意見	見	人数	意見	見	人数	意見	見	
能力	(1) 教	1 形式化の能力	1	・読みとる能力 ・表現する能力 ・情緒的反応	0	・主権者としての 自覚 ・現象の法的把握 力 ・規則や原理を適 応する能力	0	・実験証能力 ・結果処理推論能 力	0	・運動能力 ・運動技能	0	・技術的能力 ・創造的能力 ・造形的能力 ・器の大きさ	0	・反復練習をいと わぬ根拠強さ ・特有の言声を聞 いたり話したり する能力	0	・	
	力	2 極象能力	1		1		1		0		0		0		0		
		3 関連づけ	3		2		1		2		0		1		1		
		4 一般化	1		1		3		2		0		0		2		
		5 抽出能力	2		2		0		1		1		1		1		
		6 一般性を見い出す	1		1		4		1		0		0		0		
		7 論理的推論力	2		3		2		2		1		1		1		
		8 推論過程の短縮	1		1		1		1		0		0		0		
		9 可逆性	1		0		0		0		0		0		0		
		10 柔軟性	2		1		2		1		1		0		1		
才能		(2) 生徒と才能	出来る生徒とは	・全般的な理解力がある ・ユニークな発想や獲得 の能力を示す	・理解力のない生徒 ・特定の教科に秀れている 生徒	・出来る生徒は才能ある 生徒であるが、逆は必 ずしも真ではない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・学習内容の修業者 ・本来もっている体力能 力	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない	・才能を養育する場所が なければできてくる生徒に ならない
	能	関連性	密である		・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない	・関連性はあまりない
		(3) 才能の伸長	伸びている	0		1		1		0		0		1		2	
		伸びていない	2	・そのような教育 体制でない	1	・能力育才に対する 統一性のない指導	0	・才能を伸ばすよ りな指導が意図 的になされない	0	・知識のみ求める 気持が強い	1	・施設が不十分 ・教授力、研究力 が不十分	0	・施設が不十分 ・教授力、研究力 が不十分	0	・施設が不十分 ・教授力、研究力 が不十分	0
		十分にない	1		2		2		3		1		1		1		
		疑問に思う	0		0		2		0		0		0		0		
		ある	2		2		3		4		2		2		3		
		ない	2		0		3		0		0		0		0		
		必要ない	0		0		0		0		0		0		0		
		学力	(1) 学力実測調査	1 授業がすぐれている	0		0		0		0		0		0		0
2 教師も生徒も熱心			2		1		1		2		1		1		0		
3 予備校・塾	0			0		3		0		1		0		0			
4 生徒の努力	0			1		5		1		2		2		3			
授業	(2) 生る原因の調査		1 授業がすぐれている	0		0		0		0		0		0		0	
	2 教師も生徒も熱心		2		1		1		2		1		1		0		
	3 予備校・塾		0		0		3		0		1		0		0		
	4 生徒の努力		0		1		5		1		2		2		3		

[2]	学力と	国語		社会		数学		理科		体育		芸術・技		英語	
		人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見
[2]	小 設 問 1 高い生徒におく 2 平均的生徒におく 3 低い生徒におく	1		0		1		0		0		1	・個別指導の重視	0	
		4		4		5		4		3		1		4	
		0		0		0		1		0		0		0	
[2]	授 業 1 自分の授業レベル で生徒をひっぱる 2 生徒の能力に合わす 3 生徒など眼中にない	0	・生徒の能力を引き出していく	2		4	・基本事項を徹底して理解させる	0	・生徒の能力に合 わすのが当然で ある	0		2		2	
		3		3		2		3	・能力を引き出す より際する	3		2		2	
		0		0		0		0		0		0		0	
[3]	(1) 指導 方法及び 教材	3		1		1		2		3		3		1	
		1		3		5		0		0		0		0	
		3	・テープレコーダ ・スライダ ・プレーヤー	0	・16mm ・8mm ・スライド	2	・16mm ・8mm ・スライド	1	・16mm ・8mm ・スライド	0	・オーディオ機器 ・スライダプロジ エクター ・映写器	0	・テープレコーダ ・ ・L.L	0	
[3]	指 導 1 教科書どおり 2 教科書を手直しして 3 独自のプランで 4 その他	0		0		0		0		0		0		0	
		4		2		4		1		2		2		1	
		0		2		1		0		1		3		0	
[4]	法 則 1 併用問題集を用いる 2 ととき自分で作成 3 独自プランで作成 4 その他	0		0		5	・より深く理解さ せるため ・広汎力をつける ため	1		0		0		0	
		4		0		3		2		0		1		1	
		0		2		1		1		1		3		1	
[4]	学 力 評 価 1 期末試験のみ 2 期末試験と小テスト 3 期末試験とレポート 日頃の態度 1 章末問題程度 2 巻末問題と平易な入 試問題 3 生徒のレベルに即し た問題を自分で作成	0		1		0		2		0		1		0	
		1		2		2		0		0		0		1	
		0		0		4		0		0		0		4	
[4]	学 力 評 価 1 章末問題程度 2 巻末問題と平易な入 試問題 3 生徒のレベルに即し た問題を自分で作成	1	・思考力、想像力、 表現力を重点的 に評価したいた め自分で作成す る	0		1		1	・指導の目標に対 応させ評価問題 を作成する	0		0		0	
		0		0		3		1		2		0		0	
		4		4		3		3		0		1		3	

学力到達度	国語		英語		社会		数		学		理科		保健		芸術・技		英語			
	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見	人数	意見		
5	(3) 優の秀がない生徒		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数	
	1 特別課題を与える		0		0		2		0		0		1		1		0		0	
	2 彼等の自主性に任せず		3		3		4		4		4		2		2		4		4	
	3 伸ばしている生徒はどの名目か		1 割合		10 名位		2 名~3 名 5 名~8 名		2 名~3 名		2 名~2 名		1 名~2 名		5 名~6 名 5 名~10 名		1 名~2 名 5 名~10 名		1 名~2 名 5 名~10 名	
4	(4) 優の秀がない生徒		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数	
	1 特別課題を与える		0		0		5		5		2		1		2		2		2	
	2 彼等の努力に期待		4		0		3		3		1		1		1		2		2	
	3 できない生徒でも他の公立校の生徒からみるとできる方か		4		0		3		3		1		1		1		2		2	
4 40名中間名ぐらい		1~2名		2名前後		1問~2問		2名~3名		3~4名		1~2名, 5~6名		4~5名		3~4名		4~5名		

この表は、「学習指導に関する実態調査」と題して、本校の教官を対象にアンケートしたものを整理した結果である。

[1]は、能力と才能との関係について、考えていた点の問題であったが各科には、各科に適切な能力や才能があり、能力、才能の定義が曖昧であるため、「これだ」という結論は得られない。しかし各科ごとに才能を能力とみているのか、おぼろげながらわかるようになっている。

能力、才能についてはもっと研究する必要がある。

生徒の才能の発掘とは、うずもれているものを引き出すことであろうが、学力到達度だけを重視する現行の教育の中では、才能の発掘など思いもよらない。才能の発掘もできないのに才能を伸ばすよりよい教育はできそうにない。しかし、既習事項をまわりの記憶する以外に既習事項を土台として発展的な能力を育成するためにどうしたらよいか。

このように各方面にもおおい私達は目を向ける必要がある。

[2]は、学力と授業の関係であるが、自分の授業がすぐれているから、生徒のレベルも高くなった。と考え

ている教官は少ないように、もっともこれは自分自身がそう思っている、そうだと答えにくい面もあり、疑問がまずあったと思うが、生徒がよくできるのは、もともと質のよい生徒をとっているのだから、当然である。という意見が支離滅裂である。しかし、[3]でもわかるようにほとんどの教官が教科書を一部手直ししたり、副教材は自分自身でつくっている。したがって、生徒の質は良いにしても少なくとも私達は生徒の質に合った授業を展開し、彼等の才能を伸ばさせていると、はっきり断言できないうえでも減退させてはいない。と、このアンケートの結果からいえる。

[4]の学力到達度においても、キメ細かな評価問題を作成し、生徒のレベルにあった問題を試験問題として課していることがわかる。しかし、どうしても平均的レベルの生徒を対象としているようなので、伸ばすことができる生徒や、おぼろげな生徒に対する指導を、ややおこたっていることに気づく。今後の課題である。

以上、あらゆる点にわたって、30周年を期して、駒場中・高校の現状を示す一つの資料を、ここに提出しておきたい。

アンケート2

学習環境とは、主に授業、または学校生活全体を学習とするならば学校生活を、学習という面
 でとらえた時の、我が校と諸条件を指します。言いかえれば、授業問題ですが、これは単に教師
 と生徒の関係ではなく、自分にとってはまわりの生徒も学習環境となるわけだから、生徒と生徒
 の関係も入ります。

そこで生徒の皆さんひとりひとりに意見を聞こうというわけです。問題点は特に指定しません
 でした。それ自体まだはっきりしていないし、自由な意見を聞きたいからです。

① 授業について

<注意> 1.2 では教科別に、興味や協力のなさの原因を求めようというのではなく、どの授業
 でも内容以前の、授業態度・雰囲気があるわけですから、一番共通して言えることを書いて下さ
 い。4 では、授業を改善していく場合目標となるような授業を知りたいので、あなたがその授業
 を重く見るか否かにかかわらず、客観的に考えて答えて下さい。しかし教師の人気投票ではない
 ので、その結果は公表しません。

1. あなたは全体的に授業に対し、真剣に取り組む要素（興味）を持っていますか？

ア、知的興味がある イ、興味はないが必要性は感じる

ウ、興味も、授業に取り組む必要性も感じない。

2. あなたは全体的に授業にどのような態度で臨むことが多いですか？

ア、できるだけ事を吸収しようと、授業だけに集中して、

イ、授業と同時に、授業とは直接関係のない（同じ科目の問題集なども含む）勉強（内職）
 にも励もうと思つて

ウ、授業は人の邪魔にならない程度に無視し、内職に励もうと思つて

エ、人と話をしていて、聞いていないか、聞き流している。

3. あなたは教師によって、多少なりとも授業態度をかえていますか？

ア、かえている イ、かえていない

4. あなたが受けている現在の授業で、一番まじめになれ、また全体の雰囲気もよいのは、誰の
 受け持つ授業ですか？ 複数の場合も、例として1人の名前を上げて下さい。

() 先生の授業

5. 教師の、授業の進め方や態度として、あなたはどんなことを望んでいますか？ 次の例の中
 で、望んでいるものには○を、望んでいないものには×をつけて下さい。○、×、つけないも
 のの数は自由です。

- ① ア 教科書通り平均的スピードで進める イ 教科書を早く終え、他のものをやる
 ウ 教科書以外の内容を取り入れながらやる エ 予定の範囲が、終らない。
- ② ア 課題を出して、答え合せだけで授業をやる イ 説明の他は、その場で指し、答えさせる
 ウ 問題も説明もすべてやってくれる
- ③ ア よく遅刻・欠勤をする イ よく時間を延長する ウ よく雑談をする
 エ よく宿題を出す
6. あなたは自分のクラスの他 生徒の態度をどう思い、どう行動しますか？
- ア さわがしいが自分もそうだから何もしない。
- イ さわがしいが、注意するだけ無駄だから自分だけは静かにしている
- ウ さわがしいと感じ、注意する
- エ 静かだが人が内職しているのを見ると嫌な気がする
- オ 静かで、皆集中しているのでよい

② 学習内容について

<注意> 1で、現代国語、英文解釈、芸術、保健、体育が、取り上げられていないのを、不満に思う方もいるかと思いますが、質問の性格上、それらの場合非常に答えにくくなるので除外しました。又このアンケートは、1.2年生が対象なので、現在習っている科目だけについて答えて下さい。2.3については①の時と同様、科目によってちがうでしょうから、全体的にみた感じでけっこうです。

1. あなたにとって学校の授業又は教科書で取り上げられて、初めて接する内容は、すでに知っている内容を含めて、取り上げられた内容に対して、どれ位のウエイトを占めますか？ それぞれについて、適する記号（アイウエオ）を記入して下さい。

- ア ほとんどが初めて接するもの イ 初めて接する内容の方が多い
 ウ 半分半分である エ すでに知っている内容の方が多い
 オ ほとんどが、すでに知っているもの

- ① 古典（ ） ② 数学（ ） ③ 生物（ ） ④ 化学（ ）
 ⑤ 物理（ ） ⑥ 世界史（ ） ⑦ 地理（ ） ⑧ 英文法（ ）
 ⑨ 英作文（ ）

2. 授業で取り上げる学習内容について、宿題や期末準備、教科書準拠の問題集以外に、授業のための予習、復習をやりますか？ 又時間にすればどの位ですか？

- ① 予習 ア やる 1日（ ）時間位 ② 復習 ア やる 1日（ ）時間位
 イ やらない イ やらない

3. 2における予習や復習をふだんの勉強とすれば、それは、その他の、独自にやっている勉強(塾などを含む)に対して、どの位のウエイトを占めますか？

ア 0割 イ 1割位 ウ 3割位 エ 5割位 オ 7割位 カ 9割位
キ 10割

4. あなたは、受験しないと決めている教科、それが無い人は、特に興味のない教科の勉強に、どのように取り組んでいますか？

ア 全然勉強しない(単位のとれる程度) イ 高校教育課程としてひととおりはやる
ウ 他の教科と同様、まじめにやる

5. 4の教科の授業に対しては、どんな態度をとりますか、①の2と比較して答えて下さい。

ア 授業にはできるだけ出ない イ 授業には出るが、内容は無視する
ウ 他の授業と同じようにまじめに受ける

③ 教駒の学習環境について

<注意> 今までの問いとちがってあなたの判断と、考えが必要です。重要な事なので、まじめに書いてくださるようお願いいたします。

1. 今までの質問に答えてきたあなたと、あなたのまわりの環境を考えて、教駒の学習環境は、何に、適していると思いますか？(複数回答可)

ア 教師による受験指導、生徒の受け入れ体制が整っている
イ 授業中、皆まちまちの事をやっているように、個人個人の受験勉強的なものは行われているが、教師側には、承認されていない。
ウ 高校教育協課程の歴修が徹底して行われ、それが、中心的な存在になっている。
エ 教師による人間教育が、各教科の学習において行われている
オ 専門的な学問研究が、各教科の学習において行われている

2. これから授業を改善していくとしたら、1のどの方向にむかって改善されることを望みますか(複数回答可)

ア 教師による受験指導をしてほしい、又は強化してほしい
イ 個人個人の勉強を手伝う家庭教師的な教え方をしてほしい(1のイの強化)
ウ 高校教育課程をていねいに、落ちこぼれがないようにしてほしい
エ 人間教育をもっと強化してほしい
オ 設備を整え、もっと学問的な研究ができるようにしてほしい
カ その他 {

3. 現在あなたは何を目的として授業を受けていますか？

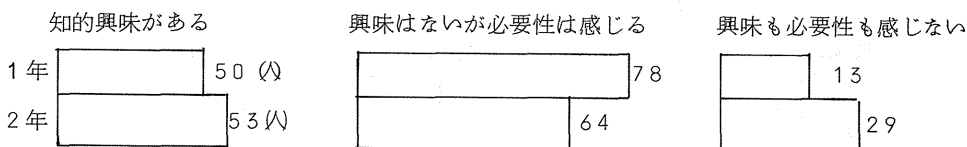
ア 受験技術 イ 卒業証書 ウ 教養 エ 学問的探究 オ 何もない

御協力 ありがとうございました

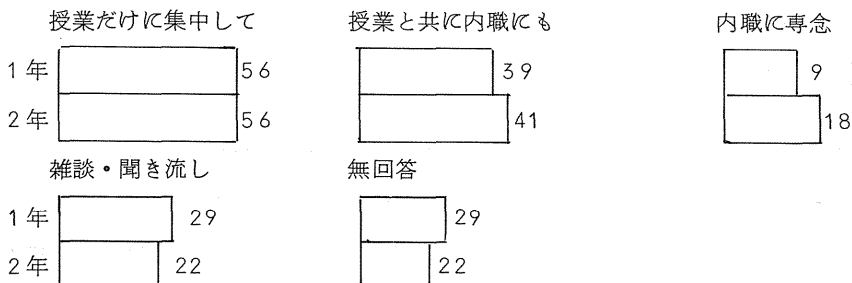
このアンケート分析と考察は，3学期に行ったアンケートの結果を役員が見て，話しあつた結果，得られた一つの考えをまとめたもので，今後，この結果を基にして，討論をしていきたいと考えています。なお，グラフの一年，二年，というものは調査した3学期当時の学年をさし，番号はアンケートに記したものを指しています。

〔1〕現状分析

(グラフ) ① 1. 授業に対する興味

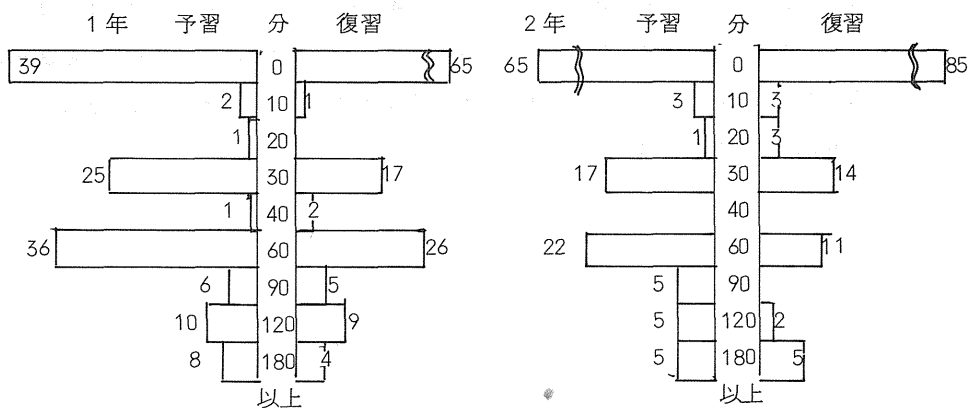


2. 授業態度

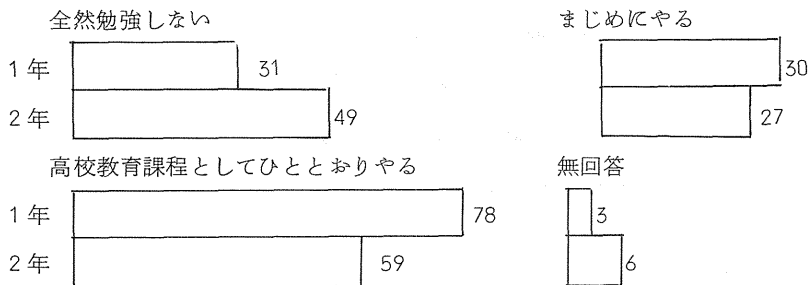


(1) 上の結果より，生徒の大部分は，授業に必要性を感じていることがわかった。しかし授業だけに集中している人よりそれ以外の人が多いことから，授業内容を学習する目的を期末試験に準備すること，に置いていると思われる。そのために授業に出ていなければならない，と感じているようです。

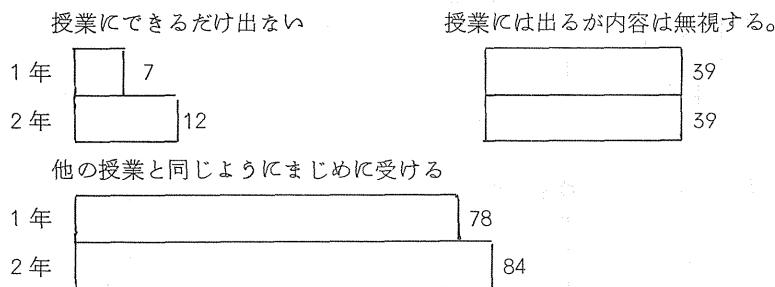
② 2. 予習，復習の時間（「やらない」に〇をした人は0時間に含めた。）



4. 受験しない、又は特に興味のない教科への取り組み



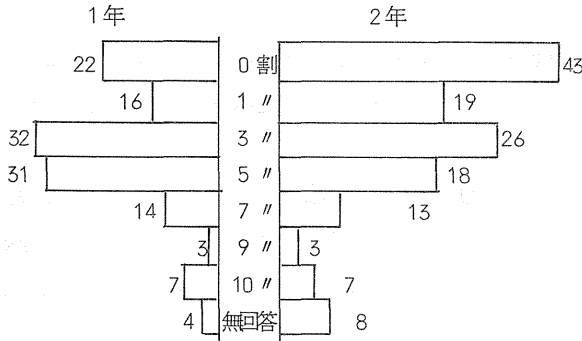
5. 上の授業に対する態度



(2) また一つの見方として、アンケート②の4で上げたような科目と、それ以外の、いわゆる受験科目に分けて見てみると、前者については、「ひとつおりする」と考えている人が多いようです。ところが「ひとつおりする」の内容というのは5からわかるように「授業をまじめに受ける」だけであって、「予習・復習をキチンとやる」ことまで含めてはいないのです。それは、予習復習をやらないと答えた人が、全体の半分を占めることからわかります。さらに、1年と2年を比較しますと、2年生の方が、非受験科目に費す時間が短いことがわかります。これは受験がさし迫った問題となっている（アンケートは3学期に行った。）ことから当然といえるでしょう。

②の5の結果は、まじめに受けている人が多い事を示していますが、予習復習の時間の量や、あとに掲げる、全体の勉強時間に対する割合などを考えてみると家庭での勉強時間の少ないのを補うため、それらの学習は学校でできるだけ済ませ、家では他の事をやるためだと解釈するのが自然だと思います。

② 3. 予習復習が、全体の家庭学習（塾などを含む）に対して占める割合



※ お詫び

先に出したアンケートの問いでは「その他の勉強に対する割合」を問う形になっており、問いに不備があったこととお詫びします。しかしほとんどの人が「全体に対する割合」と解釈してくれたようなので、そのように結果を出すことにします。

(3) 前ページのグラフを見てもらうとわかるように、1年生も2年生も80%以上の方が、予習復習は半分（5割）以下と答えています。残りの半分以上は、期末準備や受験準備であることが予想されますが、いわゆる受験科目の予習復習などそのまま期末・受験準備につながる部分があるわけですから、さらにその他に時間を決めて独自にやっているもの（参考書）などがあるわけです。

大ざっぱな計算ですが、②の2および3から、（この場合1年と2年を比較する必要はないので1年だけにします。）1年では

1日の勉強時間は 予習 復習 割合 $(50分 + 35分) \div 0.37 = 3時間50分$ (前3つの数字は計算して出したもの)

内訳は 予習復習に 1時間25分
その他に 2時間25分 ということになります。

②1 各教科の内容既知度（グラフの幅は全体を一定とした時の割合で、数字は実際の記入数であらわしました。）

1年	ほとんどが初めて	初めてが多い	半々	既知が多い	2年	ほとんどが初めて	初めてが多い	半々	既知が多い
古典	5	8	4	2	3	5	9	5	1
数学	2	5	2	7	4	0	2	8	1
生物	4	2	3	9	2	6	1	9	7
化学	5	9	4	3	2	8	5	4	4
地理	2	5	3	2	3	1	3	0	1
英文法	12	15	4	8	4	3	1	7	7
英作文	1	6	1	9	5	1	2	7	1
古典	4	6	3	9	3	5	12	7	7
数学	2	4	1	3	4	6	3	1	3
生物	3	9	1	6	7	6	6	6	6
化学	6	5	3	1	1	5	9	4	4
物理	8	4	3	3	1	3	1	3	5
世界史	6	5	4	9	1	4	1	4	3
英文法	1	8	1	1	3	9	4	2	3
英作文	2	1	3	2	1	5	8	5	5

2年生で化学と生物の両方に記入した人も多かったため、化学、生物を合計すると160を越えています。しかし1年生の世界史、2年生の地理などは除外しました。

(4) ②の1から科目によって内容既知度がたよっていることがわかります。グラフの特徴から科目をいくつかに分けて考えてみますと。

- **古典**：これは主に古文・漢文の解釈などで、質問に適さない科目だったかも知れません。文法的・文学史的知識は身につけている人は多くても、古文そのものには初めて接することが多いでしょう。
- **数学**：皆さんが重要科目と思っているだけあって、内容既知度も高く、グラフは左側に寄った形をしています。内容既知度が高いことは、予習や復習、さらに、「その他の勉強」で十分やっていることを示します。だからこれらの授業は皆さんの理解度に応じて進度を速くしていけるでしょう。
- **生物**：グラフで言えば、割合、初めて接する内容が多い科目といえるでしょう。
- **化学**：科目によっては、授業の独自性によってそのようになっているところもあるでしょう。
- **物理**：が、一般的に言って、キッチンと取り組んでいる人と、適当にすませている人に分かれるような科目だと言えるようです。それはやはり、各人が自分の大学受験で必要かどうかによって身を振り分け、進んでやるか、なるべく期末の点数に必要な十分な程度に学習しているからでしょう。

以上のように見てくると、生徒の皆さんの取り組む態度によって教材を分けてみると3つの型に大別されます。

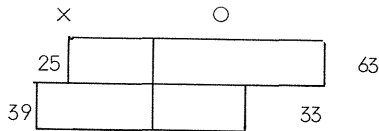
- 第一は、受験科目とははっきり決めている教科で、予習復習もやるが、独自に計画を立てて勉強している場合が多い。
 - 第二は、受験科目ではないとはっきり決めている教材で、家庭学習にさく時間はほとんどなく、通知表で及第点を取ればよいと考えている人もいる。
 - 第三は、第一と第二の中間の、受験科目に選ぶかどうか決めていなかったり、それほど重視していない教材で、予習・授業・復習で内容を理解し、あえて独自の勉強を計画しない人が多い。
- (5) 以上が、生徒の現在の授業に対する取り組みと、その基となっている家庭学習の現状について考察を加えたものですが、それらすべてによって、駒場の授業風景、少なくとも生徒の授業態度は説明できると思います。つまり、今まで述べて来た事が原因で、これから述べてゆくことが、結果になっているわけです。

しかし、すべての人が、今まで述べて来たような考えを持っているとは思いません。もっと立派な考えをもって自分の生き方を実現しようとしている人はいるでしょうが、そのような人たちがばかりなら、学校はもっと理想的な姿になっているはずですが、こう考えてみると、現状を形成しているだろう多数の人々はそのような考えではなく、今、書いたような考え方をしているのではないかというのが、役員会の見解です。

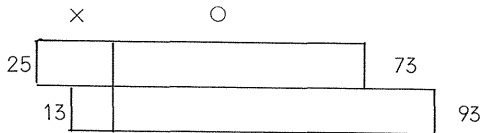
① 5 (アンケートの番号) 生徒の望む授業のあり方 (進め方, 教師の態度)

[上が1年下が2年]

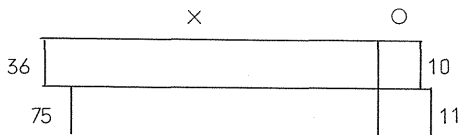
①ア 教科書を平均的速度で



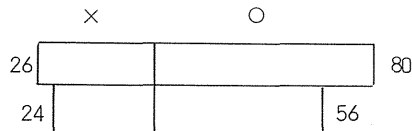
ウ 教科書以外の内容を取り入れて



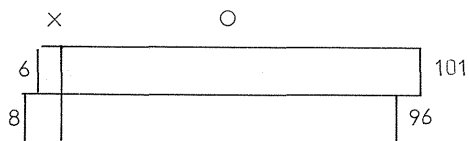
②ア 答え合せだけの授業



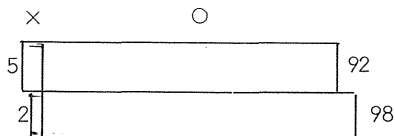
ウ 問題も説明もすべてやってくれる



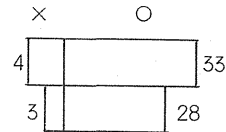
イ よく時間を延長する



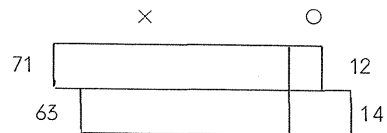
エ よく宿題を出す



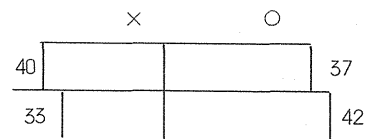
イ 教科書を早く終え他の教材をやる



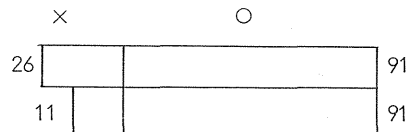
エ 予定の範囲が終わらない



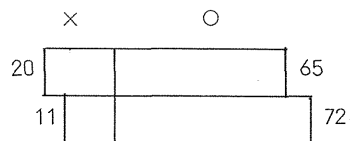
イ 説明の他はその場でやらせる



③ア よく遅刻・欠勤をする



ウ よく雑談をする



記入数は制限しなかったため
合計はまちまちである。

(6) 上のグラフで結果がはっきりしているのは、①のエ、②のア、③のア、イ、ウ、エ、です。これらの箇条書きにすると

- 答え合せだけの授業はよくない。
- 遅刻・欠勤・雑談は歓迎。
- 時間延長や宿題はよくない。

また①のイは総数が少ないが、教材によってちがってくる、というのが実際であろうからし方がないでしょう。

上のような結果に共通の原因は、自主勉強時間の確保とそのため期末準備負担の軽減だと思います。

遅刻・欠勤の歓迎は自習時間（内容は家庭学習又は期末準備が多い）が得られるからであり、宿題ぎらいは家庭学習の時間をそれに割かなければならないからであり、時間を延長されればそれだけ期末準備負担が増え、雑談があればその分だけ内容が減り、内職に励めるからだろうと思います。それらは得した時間に見ればわずかなものですが、アンケート結果に端的に表われているといえるでしょう。

①、②の各問にはそれがよいにせよ悪いにせよ生徒の望む授業の状況が表われています。

①で注目すべき点では、1年生はウよりもアを望み、2年生はアよりもウを望んでいる点でしょう。いいかえれば、1年生は教科書に沿った標準的な授業を望んでおり、2年生は授業にさまざまな内容を盛り込んでももらいたいと望んでいるのです。これは単に受験期の到来までの時間のちがいでなく、その学年の特色の表れだろうと思います。授業に受験技術（のようなもの）の伝授を期待するか否かによって、授業がためになるものか、負担かに分かれるのでしょう。そのちがいは②にも表れています。

②は授業形態に関する問いでありアイウのいずれも現在、存在しているものと思います。①のちがいが、1年がイよりもウを望み、2年がウよりもイを望んでいるちがいとなって表れているのは納得してもらえそうです。イはいわゆる少人数制塾形式で、ウは多人数制ゼミ形式であると言えるでしょう。この2つはどちらがよいとも、どちらを生徒が望んでいるとも断定できませんが、授業負担の面では後者が軽く、効果の面では前者がためになることは言えるでしょう。（ただし生徒自身が真剣に取り組んでいる科目についての話。それ以外の科目では後者の方が楽なので、そのためにウに○が多いのでしょう。）

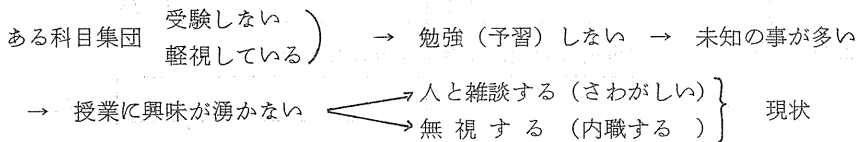
①3 教師によって授業態度をかえているか？

	かえていない	かえている
1年	25	122
2年	22	115

①6 他の生徒の態度について

	62人	46人	6人	9人	28人
1年	さわがしいが、自分も そうだから何もしない	さわがしいが、注意 するだけ無駄だから 自分も静かにしている	6人	9人	静かで 皆集中し ている
グラフは回答 全体を固定し てかいた	ア	イ	ウ	エ	オ
2年	50人	25人	静かだが 内職をし ているの は嫌だ		26人
			16人		

(7) 現状はさわがしい、と見てよいだろう。「静かで皆集中しているのでよい。」というのは居直りのように思われる。「さわがしい」というのは、今までの推論から見てむしろ当然であろう。アよりもイ、ウ、エの合計の方が多いところからさわがしいことに嫌悪感を持っている人は多いが、ア、イの合計はウ、エの合計よりも多いところから現状を黙認する人が多いことがわかります。黙認している人にもいろいろなタイプが見うけられます。一つは授業を軽減していても静かでも構わない場合、一つは授業に真剣に取り組むことは不可能とあきらめている場合、そして自分なりに真剣に取り組んではいるがまわりのさわがしさは改善不可能と考えている場合です。一般に重要視されていない教科の授業には、前にみたように多々の問題があり、特に授業がさわがしい、無関心な生徒が多いわけですから、一つの場合として取り上げて検討してみる必要があります。ここで改善策を見出すことはできませんが、何故このような状態が生まれて来たのかという事については、かなりしつこく述べてきたつもりです。



重要視されている教科の授業については前に二つの受けかたがあると述べましたが、その1つの授業を負担と考える人ならさわがしいことに嫌悪感を抱かないはずなのに、この結果ではオの中に少し含まれているとしか考えられません。これほどさわがしいと考える人が多いのですから、改善の余地はあるはずで、重要視されている科目では教師・生徒の努力によって双方に満足のいく形で授業の改善が可能であると思われます。これらの科目のさわがしさ、不真面目さ、主として軽視科目での「それ」からの惰性によるからです。

③1. 教駒の学習環境について

[1年]

[2年]

ア、教師による受験指導，生徒の受け入れ体制が整っている

10 ア 22

イ、授業中皆まちまちな事をやっているように，個人個人の受験勉強的なものは行われているが教師側には承認されていない。

84 イ 74

ウ、高校教育過程の履修が行われ，それが中心的な存在になっている

37 ウ 28

エ、教師による人間教育が各教科の学習において行われている

10 エ 15

オ、専門的な学問研究が，各教科の学習において行われている

16 オ 51

無回答 16

無回答 16

③2. 授業の改善の望ましい方向

ア、教師による受験指導をしてほしい，又は強化してほしい

29 ア 38

イ、個人個人の勉強を手伝う家庭教師的な教え方をしてほしい（1の1の強化）

17 イ 18

ウ、高校教育課程をていねいに，落ちこぼれがないようにしてほしい

45 ウ 42

エ、人間教育をもっと強化してほしい

48 エ 39

オ、設備を整え，もっと学問的な研究ができるようにしてほしい

44 オ 45

カ、その他

14 カ 13

その他……教師の自己満足をやめてほしい。もっと広い視界から授業を行ってほしい。

自由時間をふやしてほしい。どんな形にせよ生徒が真剣にうちこめるものに。

他。

(8) ③の1は教駒の現状を各人はどのように認識しているかを知ろうという意図のもので、やはり、「皆まちまちの事をやっている」という生徒側の態度と「受験指導よりも高校教育課程を重視」している教師側の指導の現状をとらえているように思われます。ここでも生徒側教師側の意見の食い違いがあるようにみえます。ところが③の2を見てみると、「高校教育課程と人間教育と学問的研究」に票が多く入っています。この点についてみると教師と生徒の考えのズレはないのです。

さて、それでは教師と生徒の意見は一致をみたと、決めてしまうのはよくないように思われます。それは、生徒の③の1と2の答に矛盾があるからです。現実として③1のAが行われているならともかく、Iが行われているのですから（それは自分の意志でやっているはず）、もし③2のウ、エ、オの方向に改変されてしまったら、1のIはやりにくくなるはずですが。ですから私たち（役員会）は、2は望ましい方向を示しただけであって、現状の1のIを作り出している生徒は、むしろ現状維持が本音ではないか、と考えました。つまり、建て前と本音の使い分けがなされているのです。

又、2年生にいく分、受験指導を望む声が強くなるのは、当然と言えるでしょう。

③3何を目的として授業を受けているか？

この いは7年前にとったアンケートと同じ質問文、同じ選択肢で、勉強意識を比較するためにも出しました。ただし7年前の方は2学期にとったものなので、3学期にとった今回のものと単純には比べられないでしょう。

		ア	イ	ウ	エ	オ
		受験技術	卒業証書	教 養	学問的探究	何もない
7 年 前 %	1年	0 (%)	6	40	25	25
	2年	15	9	29	17	17
	3年	23	33	10	7	27
今 回 %	1年	15	24	32	17	7
	2年	21	18	28	15	11

数字は%だが無回答も含めた割合なので合計は100%にならない。

(9) 今回のアンケートは3学期にとったものなので、1年と2年、2年と3年を、7年前と比較してみます。

- 1年 — 前回より卒業証書が増え何も無いが減った。
- 2年 — 前回より教養・学問的研究が増え、卒業証書何も無いが減った。

しかし大局的にみると7年前と勉強意識はあまりかわっていないようです。そこで1年を7年前の1年と2年の間、2年を2年と3年の間に入れて学年を負うごとの推移を見ますと、

1年	1学期	イ	ウ	エ	オ	
	3 "	ア	イ	ウ	エ	オ
2年	1学期	ア	イ	ウ	エ	オ
	3 "	ア	イ	ウ	エ	オ
3年	1学期	ア	イ	ウ	エ	オ

<後書き>

現在、教駒は大きな転換期に立っています。その1つは筑波移転、1つは30周年、1つは入試制度の改変です。これらによって学校の諸制度、校風なども変わることが予想されますが、授業形態も変わらざるをえなくなるでしょう。（特に入試制度の改変によって）

皆さんの本音を授業改変に適応するとそれは学校自体の転換と完全に対立するでしょう。かといって、本音を出さないで建て前の授業像を実現しようとすれば、かえって各人の授業ばなれ、学校ばなれが促されて、授業は卒業証書のためだけに受けるようになってしまうでしょう。

ですから、授業に何を求めているか、学校に何を求めているかをもっと明確に知る必要から、これからその点に絞ってもう一度アンケートをとることを考えています。

以上 1976年度 後期役員会

高校生の学習関係アンケート結果について 5.2.2実施

○ 生徒のデータをもとにパーセントをとる次のようになる。

対象学年 1年（現2） 2年（現3年）

1. 授業に対する興味、取り組む必要性について

回答数 1年 146名 2年 150名

	興味がある	興味ないが必要性あり	興味も必要性もなし	その他	無回答
1年	34%	53%	9%		3%
2年	35%	43%	19%	3%	
全体	35%	48%	14%	2%	1%

〔参考〕 S.44年度調査

	1年	2年	3年	平均
全科目に興味があり、やる気十分	11%	8%	0%	6%
一部の科目はつまらぬが、大半は興味あり	27%	40%	30%	32%
一部の科目は興味あるが、大半はつまらぬ	29%	36%	42%	39%
ほとんどの科目で興味なく、やる気もない	5%	12%	20%	12%
全然ダメ	16%	8%	8%	10%

2. 授業に臨む態度について	1年	2年	平均
授業だけに集中する	42%	41%	41%
授業と内職を両立させる	29%	30%	29%
内職を中心に人の邪魔にならぬ程度に授業無視	7%	13%	10%
人と話をしていて、聞いていないか聞き流す	22%	16%	19%

3. 教師によって授業態度を変えるか	1年	2年	平均
変えている	83%	84%	83%
変えない	17%	16%	17%

4. 授業の進め方, 態度として	望 し い			望 し く な い		
	1 年	2 年	平 均	1 年	2 年	平 均
① 教科書を平均的スピードで	43%	22%	32%	17%	26%	22%
教科書をはやく終え, 他の教材を	23%	19%	21%	27%	21%	24%
教科書以外の内容を取り入れながら	50%	63%	57%	17%	9%	13%
予定の範囲が終らない	8%	9%	9%	49%	42%	45%
② 課題を出し, 答え合せだけで授業を	7%	7%	7%	59%	50%	54%
説明の他は, その場で指し答えさせる	25%	28%	27%	27%	22%	25%
問題も説明もすべてやってくれる	55%	37%	46%	18%	16%	17%
③ よく遅刻, 欠勤する	62%	61%	61%	18%	9%	14%
よく時間を延長する	4%	5%	5%	69%	64%	67%
よく雑談する	45%	48%	46%	16%	7%	12%
よく宿題をだす	3%	1%	2%	63%	65%	64%

5. 他の生徒の授業態度について	1 年	2 年	平 均
騒しいが自分もそうだから何もしない	39%	41%	39%
騒しいが, 注意しても無駄だから自分だけ静かに	28%	20%	25%
騒しいと, 注意する	4%	4%	4%
静かだけど, 内職をみると嫌な気がする	6%	13%	9%
静かで, 皆集中しているからよい	17%	21%	19%
そ の 他	7%		

5. 非受験教科あるいは特に興味のない授業に対する態度

	1 年	2 年
授業にできるだけでない	5 %	8 %
授業にはできるが内容を無視	30 %	27 %
他の授業と同じようにまじめに	60 %	59 %
その他	5 %	4 %
無 答	1 %	1 %

駒場の学習環境に関して

1. 駒場の学習環境は何に適しているか

	1 年	2 年
教師による受験指導を生徒も受けいれている	8 %	15 %
教師は受験指導していないが生徒が受験勉強している	64 %	52 %
高校教育課程の復習の徹底が中心	28 %	20 %
教師の人間教育が教科学習に反映している	8 %	10 %
専門的な学問研究が各教科の学習に反映している	12 %	22 %
その他、無答	13 %	11 %

2. 授業をどういう方向で改善してほしいか

	1 年	2 年
教師による受験指導の強化	22 %	21 %
個人の学力を伸ばす家庭教師の指導	13 %	12 %
落ちこぼしがないうよう高校教育課程をていねいに	34 %	30 %
人間教育の充実・強化	37 %	28 %
設備を整え、学問的研究ができるように	34 %	32 %
その他	11 %	9 %

3. 何を目的として授業を受けているか

	受験技術	卒業証書	教 養	学問的探究	何もない	無 答	そ の 他
1 年	23 %	36 %	49 %	25 %	11 %	5 %	2 %
2 年	30 %	27 %	42 %	22 %	17 %	3 %	3 %

〔高校生徒自治会係より〕

参 考 S. 4 4 年度

	受 験 技 術	卒 業 証 書	教 養	学 問 的 探 究	何 も な い
1 年	0 %	6 %	40 %	25 %	25 %
2 年	15 %	9 %	29 %	17 %	17 %
3 年	23 %	33 %	10 %	7 %	27 %

アンケート3，本校における教育に関するアンケートのお願い

晩秋の候を迎え、保護者の皆様には、一層御清栄のことと存じます。

最近では各方面で、教育問題に関心がたかまり、教駒のあり方も世論の対象となっています。

このような情勢のもとで、保護者の方々が、本校の教育に関して、日頃どのような御意見や御批判をおもちになっておられるか、裏面のアンケートでお知らせ頂くことによって、今後の私共の研究、教育活動の参考にいたしたく、わかりにくいアンケートで、はなはだ恐縮ですが、以下の各問いにお答え頂きたく、お願い申し上げます。

保護者 殿

昭和52年10月15日

東京教育大学附属駒場中・高等学校

研究部長 長 野 東

アンケートは次の諸点から構成されています。

- (I) 本校の印象について
- (II) 進学と受験体制について
- (III) 教科教育について

本校も創立30周年を迎えましたが、附属駒場中・高のあり方を保護者の方々はどのようにとらえておられるかを項目(I)でまとめ、項目(II)では、とかく世評では進学校として見られている本校の実態についての御意見や御感想をうかがわせて頂きたいと思えます。

項目(III)では、学校教育の中で教科教育の占める位置は当然大きいものがあり

ますが、それが人間形成の上で、どのような成果をあげているとお考えか、保護者の方々にお伺いしたいと思います。

アンケートの項目に“学習指導”という用語がありますが、“教科教育活動”の意味で用いております。

何分、各項目とも説明不足で、意味不明のものもあると存じますが、アンケート回答用紙の項目と御照合の上、現情勢下の駒場とその教育についての御意見をお寄せ下さるよう、お願いします。

回答用紙の回答らんには、○、×、△の三種類の記号が用意されています。設問ごとに述べてある事柄が、その通りであるとお考えのときは○の下のマス目の中に○を、まったく違うときには×の下のマス目に×を、どちらでもないときは△の下のマス目に△を記入して下さい。

また、設定された項目以外に御意見のある方はすぐ下の余白にお書き下さい。

なお、集計の都合上、10月25日（火）までに生徒を通じて担任まで、御出し頂きたいと思います。

回答例 項目(1)はまったく違う、(2)はその通りである、(3)はどちらともいえないという場合、下のように記号を御記入下さい。

設問項目	○	△	×
(1)			×
(2)	○		
(3)		△	

アンケート回答集計結果

項 目	中 1		中 2		中 3		高 1		高 2		高 3							
	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△						
(1) 御息を本校に入学させられた動機や理由についておたずねします。入学当時の御気持ちにかえて、お答え下さい。	21	56	24	17	53	25	22	41	29	35	47	43	33	36	33	27	38	36
(2) 本校の受験指導がすぐれているから。	75	18	8	76	17	6	71	15	7	78	15	85	58	14	29	58	6	36
(3) 中学へ入学すれば自動的に高校に進学できるから。	26	31	45	30	27	41	29	20	45	25	35	62	23	30	49	20	24	57
(4) 男女共学でないから。	6	2	57	7	2	88	7	4	82	8	5	112	7	5	90	7	3	91
(5) 兄弟や親類に本校出身者または在学者がいるから。	43	14	9	44	31	22	39	30	24	51	30	43	46	25	32	51	17	33
(6) 本校の校風が入つてに聞いている。	26	9	27	37	15	48	23	16	55	37	11	77	37	18	47	32	11	58
(7) 小学校または予備校の先生にすすめられるから。	32	15	55	31	16	50	23	17	54	36	17	72	17	20	60	25	16	61
(8) 進学塾または予備校であるから良い教育があると思つて。	25	29	27	48	26	22	38	37	17	51	46	27	42	34	26	40	28	33
(9) 附属学校の使命に賛同して。	8	32	26	15	45	34	15	45	32	14	51	59	8	48	46	7	41	54
(10) 私立学校に比べて教育のゆとりがありそうだから。	34	27	6	41	40	17	49	24	21	60	32	27	44	42	17	43	35	24
その他の御意見																		
(2) 入学以後の御感想をお伺いします。 本校の教育について、保護者や生徒を通して得られた御感想をお聞かせ下さい。	22	36	43	16	36	45	19	22	49	34	35	56	30	41	30	29	36	85
(1) 世間々の普通の学校である。	52	37	2	65	29	5	61	29	3	71	48	7	57	39	6	69	27	6
(3) 教科指導以外の生活面の指導が充分行われている。	47	50	5	29	50	19	28	44	21	22	73	31	18	58	25	15	59	28
(4) 学力の若い生徒が多いので刺激になつてよい。	58	9	1	85	9	2	79	14	0	108	17	1	68	17	0	81	19	2
(5) 人間的にすぐれた生徒が多いので友人関係を通して人間形成上有益である。	49	44	9	42	49	7	42	44	7	48	62	17	47	45	11	51	47	4
(6) 本校に入学させてよかつたと思つている。	95	7	0	88	12	0	83	10	0	99	29	0	81	20	3	84	16	2
その他の御意見																		
(3) 本校の進学・受験指導についての全体的な印象についておたずねします。	5	67	21	9	60	21	5	58	26	10	90	24	13	66	22	12	64	24
(1) 各教科で受験に役立つ指導がなされている	52	41	2	50	87	1	59	27	2	73	46	5	69	30	3	66	38	1
(2) 教科によっては受験を意識しない指導がある。	30	54	10	43	42	6	47	37	6	78	43	8	52	41	9	54	31	1
(3) 受験のためには本校の学習指導だけでは不十分である。	29	53	13	42	42	7	46	42	8	78	41	17	55	39	8	45	43	12
(4) 受験のためには校外学習(予備校や塾)が必要である。	20	61	13	11	64	15	17	51	20	29	56	38	20	52	31	29	51	20
(5) 本校の現行とよりの受験指導が良い。																		
その他の御意見																		
(4) 各教科の学習指導についてどのようなるものを期待しておられるか、おたずねします。	20	47	35	17	41	37	18	35	42	24	54	47	31	48	24	19	45	37
(1) 受験に合格する学力をつけるのが主目的である。	90	9	2	72	19	8	66	16	9	100	19	6	82	20	1	77	17	7
(2) 受験準備に余力があれば学問的な探究の体験をさせて欲しい。	24	52	27	14	52	28	18	49	20	31	54	40	26	51	27	19	49	32
(3) 受験準備をしっかりとやっていたら学問探究への道にも近づけるはずである。	56	48	5	39	48	15	55	26	11	49	59	17	41	50	13	43	40	19
(4) 受験を考えないで真の学力をつけるような学習をすれば、受験にも役立つ力がつく。	88	51	12	33	51	14	32	41	20	31	68	36	29	57	18	22	62	18
(5) 受験を考えないで、在校中でなければできない学習(たとえば 人間形成上必要なもの)をすすべて欲しい。	103				101		93		129		104		102					
アンケート回収数																		

項 目	中 1			中 2			中 3			高 1			高 2			高 3		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×	○	△	×	○	△	×	○	△	×
(6) 中学生は中学課程、高校生は高校課程の部分だけでいいに授業し、全員にマスターさせるべきである。	19	50	32	18	42	36	23	35	35	27	55	44	32	46	21	23	48	29
その他の御意見																		
(5) 本校は附置校として教科教育面、生活指導面で、教材の開発、指導法の改善等の実践成果を課せられています。生徒が学習する内容や程度についてのよりにか考えですか。																		
(1) 一般的に各教科とも授業程度が高すぎる。	8	39	49	5	66	26	1	50	39	6	77	42	6	67	29	4	48	48
(2) 教科書を中心に授業すべきである。	6	63	30	7	43	41	10	45	39	8	68	46	19	56	28	2	68	31
(3) 教科書と副教材(その教科の補助教材)を中心に授業すべきである。	44	45	8	55	33	5	49	34	8	73	41	11	62	41	5	47	43	11
(4) 教科書を離れてもいいから、もっと学問的にも深まるような授業をして欲しい。	56	38	6	49	41	7	42	43	10	55	62	7	48	43	12	40	47	13
(5) 独自の授業があってもよいが、教科書の内容からあまり離れた内容にならないようにしてほしい。	50	44	8	49	32	12	59	29	7	69	46	9	54	39	10	51	42	8
(6) 実験校だから、新しい内容による実験授業や新しい指導法による授業があってもよい。	62	29	8	41	35	8	56	32	6	60	55	9	49	42	10	48	45	8
(7) 本校のいままでの学習指導に満足している。	46	43	11	39	49	6	28	56	8	43	59	21	21	58	21	33	54	12
その他の御意見																		
(6) 学習指導について、現在成績不振者等いろいろの問題が社会的にもとりあげられていますが本校についてはどのように感じていますか。																		
(1) 学習指導はそのクラスで成績上位者を中心に行われている。	6	50	40	5	51	31	9	38	41	14	60	46	14	63	25	8	52	38
(2) 学習指導はそのクラスで成績中位者を中心に行われている。	31	57	8	43	43	5	32	43	10	49		7	44	46	9	36	50	9
(3) 学習成績不振の生徒についての指導は、 (イ) まったく行われていない。 (ロ) 行われている教科もある。 (ハ) よく行われている。	22	49	18	39	35	12	3	19	45	33	59	23	35	44	17	31	48	14
(4) 学習成績不振の生徒の指導についてのよりか考えですか。 (イ) あまりそれに時間をかけて前へ進む生徒を止めないよりか。 (ロ) 全員がわかるまでゆっくりにやるべきである。 (ハ) 特別指導の時間を作るべきである。	18	53	17	16	36	26	77	12	1	49	48	23	38	47	15	24	50	18
	4	54	28	0	34	44	6	51	18	4	39	49	7	44	37	1	47	43
	52	32	10	40	40	8	45	24	16	53	47	16	39	47	11	52	34	8
	4	31	24	16	31	42	8	31	45	11	42	57	14	44	38	6	44	45
	71	20	5	63	18	18	73	14	3	95	17	8	73	21	8	58	24	14
その他の御意見																		
アンケート回収数	103	101			93			129			104			102				

(I) 入学した動機について

各学年とも(2)の中学から無試験で高校にパスできることを理由のトップにあげている。

中学に入学すれば高校入試がはぶける。少しでも入試という過酷な競争を減らしてやろうという親心を感じる。中学に入るための過酷な準備教育はやむを得ない。しかし、いま、苦勞すれば6年間楽ができるというのが親心の実状のようである。

次に、(5)の本校の校風である。これははなはだばく然としていてわかったようで実はわからない。無難な問いに○をつけておこうというところか。

これに反し、(9)の実験校としての使命に○も×もつけない保護者が多い。気になるところである。

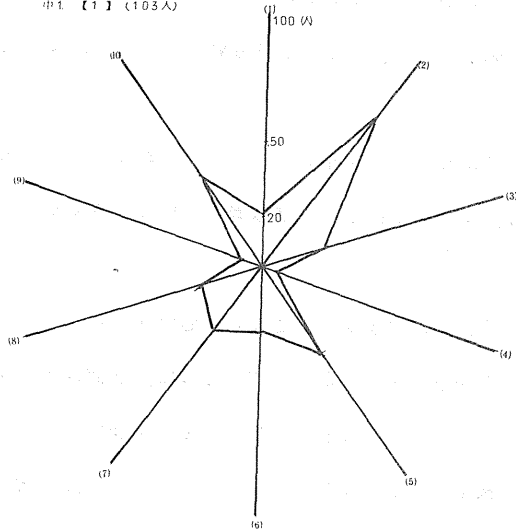
(1)であげた10個の設問だけでは、入学の動機についてその理由を浮きぼりにすることはタテマエとホンネとがあって無理のようであったが、その他の意見にホンネが出ているようなので、それを抜粋してみよう。

まず、タテマエは	{	本校の優秀な教授陣をあげている。
		次に、施設、設備の良さである。
ホンネの方は	{	東大合格率の良さである。
		次に、知的に高度な集団であることをあげている。

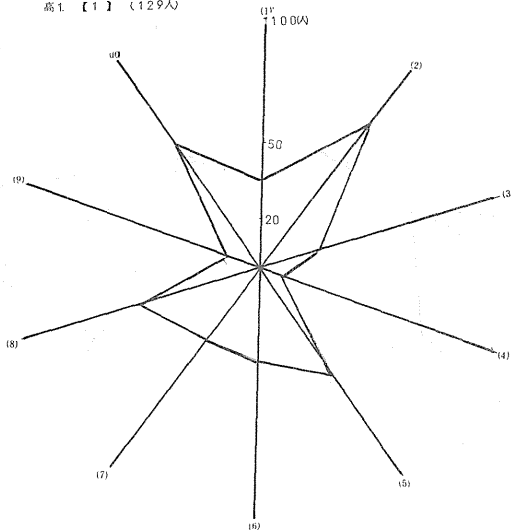
現在のように高度に発達した文明社会において、人間教育も大切であることは感じとれるがまず、息子の進学である。しかし、進学一辺倒に徹しきれない保護者の複雑な気持ちが現われている。

(I)につき円グラフを書いてみると、中学1年保護者と高校1年保護者との気持の表現の仕方が同じ形となって現われた。念のため次にあげておく。

中1. 【1】 (103人)



高1. 【1】 (129人)



(II) 入学以後の感想

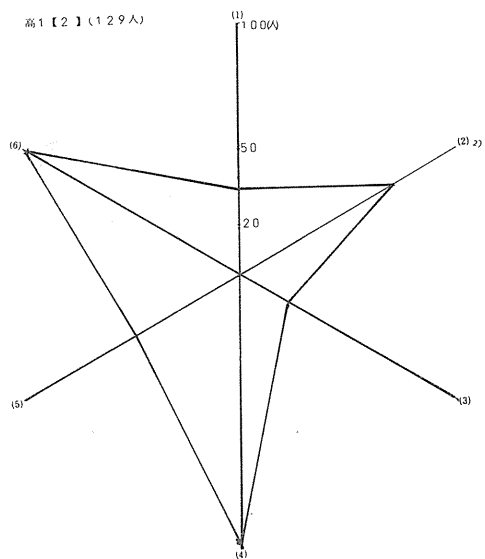
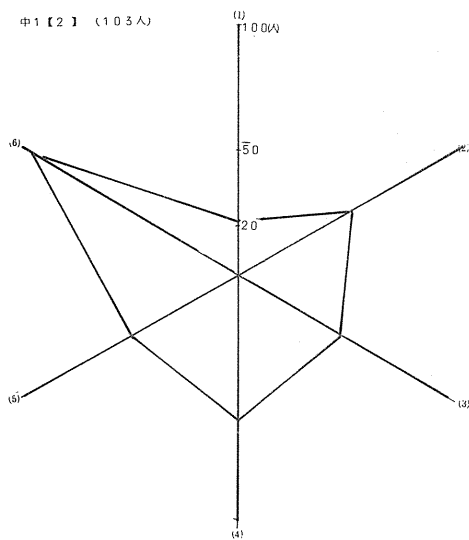
圧倒的に本校に入学させて良かったといっている。これは全体的な印象なのであって細部にわたってどこがどのように良かったのか？このアンケートからは知るよしもない。しかし、(4)の学力の高い生徒が多く刺激になり、自分の子供も勉強するようになったと感じているのが事実のようである。

生活指導面では、中1で最も高く、学年が進行するにつれて低くなっているのは、気になるところである。その反面、(2)の自主性をのばす教育については各学年とも大体同程度の支持をもっている。

その他の意見では、中学校では行事が多すぎていつ勉強するのだろう。受験に有害ではないかとはっきり指摘している保護者もいるが、高校の方では、受験校というイメージがはられてノビノビ勉強しているのが良いという意見に類するものが多い。

規律の面では中学も高校も甘やかしすぎているのではないかと疑問視し、一度校門の中に入ったら下校時以外、門外に出させる必要はないという強い意見もあった。

(2)について円グラフをかいてみよう。中1と高1の間で、(3)と(4)に差が現われている。



Ⅲ 本校の受験指導について

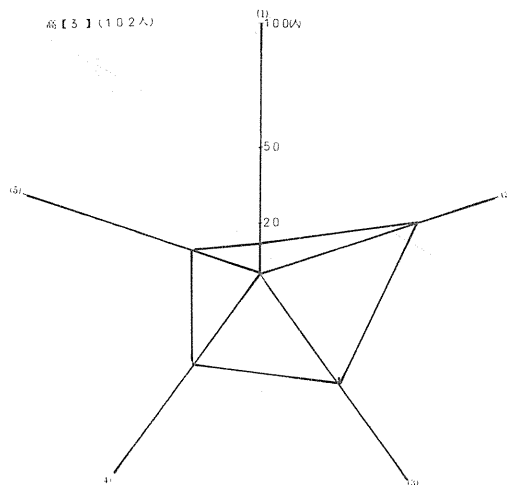
学習以外に受験指導といったものが存在すること自体が問題であると高3の保護者が指摘しているが、学習指導と受験指導との相違、高等学校でやる授業と予備校や塾でやる授業との間に相違点があるのだろうか。

学習指導とは、その教科の内容を理解させ、定着させ、応用力をつけることだと思いが、本校の学習指導だけでは不十分であるという(3)に、高校ではその人数の大体半数ちかくが集まっている。この結果は、教材内容の指導をおこたっているのか、時間数不足を指しているのか、このアンケートの結果からは判断できないのが残念である。それとも、学習指導の他にたしかに受験的なものがある、たとえば暗記術とか解法のテクニックのようなものまで指導されないことが不満足なのか。もし、そうであるなら現行の高等学校教育にそこまで要求するのは過酷といべきであろう。

以上のように、受験指導とは何か、はっきりしないまま、アンケートしたので保護者の方々もとまどったように感じられる。

しかし、結局のところは、学習指導は学校で受験的なことは予備校でやらせるよりしかたがないと思っているようである。つまり、本校で不十分なものは、予備校で補習しようということである。

Ⅲを高3を対象として円グラフをかくと次のようになった。



(Ⅳ) 学習指導への期待

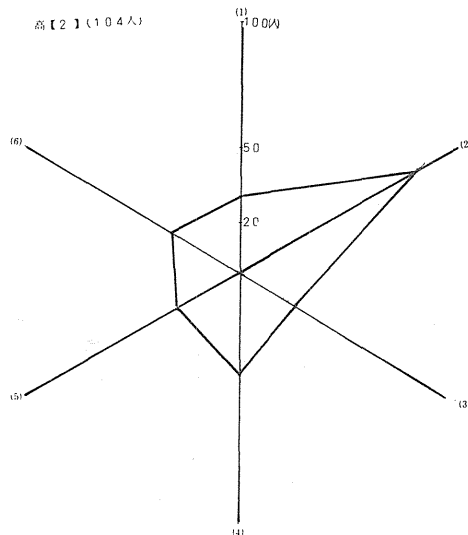
中1の保護者にとび級制度を考えよとの意見があった。これは本校だけの判断ではできないことであるが、生徒の知的な面だけを考えるとこのような意見もでてこよう。

本校の中・高の一貫教育を教科課程に関係なく何でもできるととらえている人、伸ばせる能力は中・高に関係なくどこまでも伸ばしてくれるのだと解釈している人、また、先取りする(中2の教科を中1で学習させてしまう)ことだけでなく、子供達にとって何が一番良いのか、機会と時期をみて慎重にすべきだとする人、この(4)で一貫教育を以上のようにとらえ、一貫教育についての意見が中学で多かった。

(4)でも各教科の学習指導を受験を前提として指導されるべきであり、受験準備の余力を用いて学問的な探究をさせて欲しいという意見が圧倒的に多い。次に、受験を考えなくても真の学力をつければ受験に役立つとの声が多い。

最後に高2の保護者で「(5)と(4)に○をつけるのが高校本来の姿があると思うが現実には受験があるので、あえて(1)、(2)、(3)に○をつけた」という意見があったことを結びにしておく。

高2の保護者を対象とした円グラフを参考にあげる。



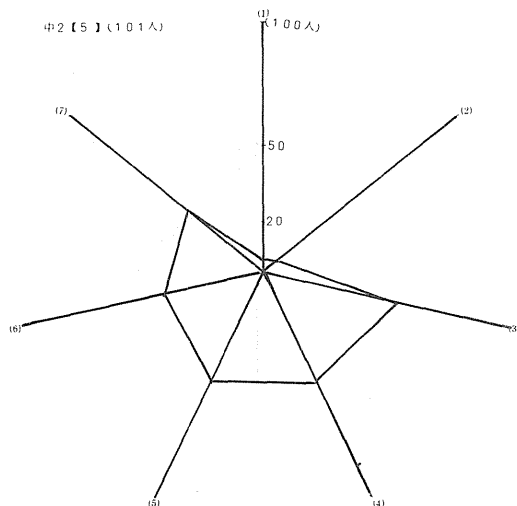
(V) 学習内容と程度

授業程度については教科によってまちまちなので一概には答えられないとしながらも、どの教科の場合にも授業程度は高すぎると思っはてはいない。教科書と副教材を中心に授業は展開されるべきであるが、実験校としての性格からいって独自の方針による授業や新しい試みによる授業も賛成はするが、できれば、教科書からあまり離れない内容をやって欲しい。というのが多数の保護者の意見のようである。

一般的には「生徒たちのようすを把握なさっている先生が最適だと思われる方法で指導なさるのでですから内容程度方法はおまかせします。(高3)」という意見が支配的なのだろうが、高校生の保護者ともなると「親には、授業内容について高度であるかどうか判断できない。(高2)」とい、中学生の保護者は「授業参観でもあれば判断できるのですが」といっている。

その他の意見として、中学低学年に「授業中のしつけ」「補修授業の必要性」「自習時間のとり扱い」等がみられ、なかでも「受験科目以外の教科は時間数を減少したらどうか」とか「空き時間には代りの先生をたのめるだけの財力を親から集めてでも対策をたてて欲しい」というきびしい意見があった。

中2の保護者を対象として円グラフを書くとき次のような形になる。

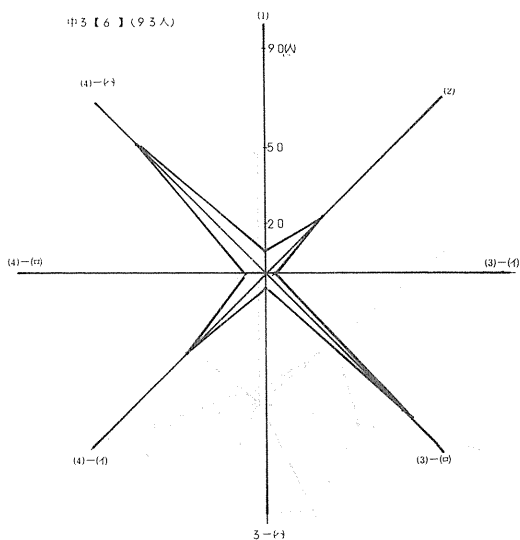


(VI) 成績不振者について

教職生の保護者としてのプライドを感じる。落ちこぼれる生徒などいないはずであるし、たとえいたとしても早目にアドバイスすれば立ちなおることができる。落ちこぼれの原因は授業自体にも問題があり、興味を持たせないとか、無味乾燥な授業も反省すべきである。とのきびしい意見があった。

学習指導は成績中位者を標準として行なわれ、成績不振者については、何等の特別な指導が行なわれていない。もっとも教科によって異なるが、なるべく早めにアドバイスをし、それでもだめなら、個人的に課題を与えるとか、レポートを提出させるとか、補修をしてもらいたい。ただし、平常の授業時間中は速度は早めでよいから、どんどん引っぱっていく授業をしてもらいたい。全員が理解できないでも次の内容に進むことはやむを得ない。というところが保護者の気持ちであろう。

次に、保護者の気持ちの中3を対象として円グラフにかいてみた。



最後に、入学者抽せん制に反対する意見をよせられた保護者の方がありました。参考のために、次にあげておきます。

駒場の入試方法を抽選制度等に改めても、現在の受験競争は、なんら改善されず、むしろ私立中・高校へ集中が激化し、勉強心に富む生徒にとって、学費負担も少ない国立附属校で優秀な先生の指導を受ける機会が失われ、その進路が閉ざされることになる。

また、それによって、本校は、質の低下を招き、犠牲になる。一時の状勢に左右されず、学校百年の計を図っていただきたい。

抽選制には反対したい。なぜなら、一生懸命がんばれば私立には経済的にいかれなくとも、国立に入学出来るという光を子供に与えてあげたい。抽選制になると、その希望がまったくなくなり、何を目標にして良いかわからなくなります。

また、学校への要望、あるいは学校の姿勢に対する意見もありました。次にあげます。

今年5月なかば、可愛い1年生が箱ジュースを飲みながら校門を出てくるのを見て、1ヶ月でもうこんな事をするのかなとがっかりした。PTA会費で冷水機を買って備え(何台でも)、この様なぶざまはさせたくないと思う。

あこがれの駒場に入り、塾通いがある事を知り、おどろいた。世間知らずと言えばそれまでだが、日曜日まで中1から塾通いとは、どこかおかしいと思う。その方がたしかに成績は上位かも知れないが、新人戦にも出られない様では何か対策がほしい。親達も、もっとうちとけてかくしだてをしないで、もっと子供達のために、よりよい環境作りを力を入れたいと思う。

一つの思想をもって教育の一つの在り方を貫くべきだと思います。エリート校ならエリート校としての実験もありましょうし、附属として教師育成だけにこだわらず、日本の教育への刷新的・昌険的な実験校としての自負をもっていただければ幸いです。